

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

⑫

要な山々を登ったよう

だ。

何年か前に五葉山自然

倶楽部の人たちと栗駒登

山をした。植物の観察を

楽しむグループは、須川

温泉から火山活動ででき

た昭和湖を目指して歩い

た。歩きながら小さな

気仙川や盛川は田を潤

し、海では魚介類を育て

ている。

新田次郎も、もうそこ

にはふるさとの面影はな

いと言っている。木曽地

方では、檜(ひのき) 樫

(さわり) 高野槇(こう

堂が嗅いでいた。

長野県の霧ヶ峰の貴重

な湿地帯に作られた「ビ

ーナスライン」という有

料道路が、一六〇〇坪地

帯にすみかを持つ鳥類の

生態系をめちゃめちゃに

していることを。

改めて思うのである。

「後世へ五葉山の魅力を

伝えたい」「森を守らな

く登む

【執筆者プロフィール】

大船渡市大船渡町在住、

七十二歳。全国に約千百

人の会員がいる短歌愛好

会「歌林」(かりん)の

岩手支部長。月に十首投

稿する。大船渡短歌会の

会長。大船渡市内の古希

以上でつくる野球チーム

「リアスパワーズ」の外

野手としても活躍してい

る。

〇神宿るがごとく空蒼

く澄む

は檜山地区にあるブナの

森である。昨年十月に五

葉山に登ったが、その折、

盛岡から来たご夫婦と一

緒になり、「五葉山は素

晴らしい」「また来たい

」と言ってくださった。

〇五葉嶺に初冠雪のあ

りし朝

増田 邦夫

大船渡市大船渡町

後世へ伝えたい素晴らしさ

花々と出合ったが、それ

でも十分堪能できた。

私は六十七歳まで仕事

をしていたが、このごろ

は昼の時間帯は割と自由

になるので、一人でふら

り五葉山に行く。「さあ

これから山に登るぞ」と

気張らずに。去年、私よ

り後に登ってきた人が途

中でクマに遭った話をし

ていた。紅葉が始まりか

けた十月のことだった。

地球はもちろんである

が、五葉山も少年少女か

ら預かった未来への宝で

ある。長野県のある地方

の出版社が発行した本の

中で、鳥で有名な中西梧

史を持つ。

『夜明け前』で書いている。

それはどまに厳し

い罰を科して尾張藩は森

を守ってきた。伊達藩も

また森を大事にしてきた

歴史を持つ。

五葉山で素晴らしいの

増田 邦夫

大船渡市大船渡町

確かに大船渡中学校の校歌に、「千古を貫くその雄姿、紫紺の五葉嶺仰ぎつつ」という詩があった。私は中学二年近くまであまり山を見たことがなかったためか、山についての知識は皆無だった。

外国航路の貨物船を降りて大船渡に戻ったとき、地域の行事で五葉山登山をした。その時初めて北の方向にそびえる五葉山を意識した。私の従姉も地域の人たちに尻を押されながら初めて登ったらしい。五葉山の話が出ると、いつもその時のことを話題にした。今はかわいそうだが施設に

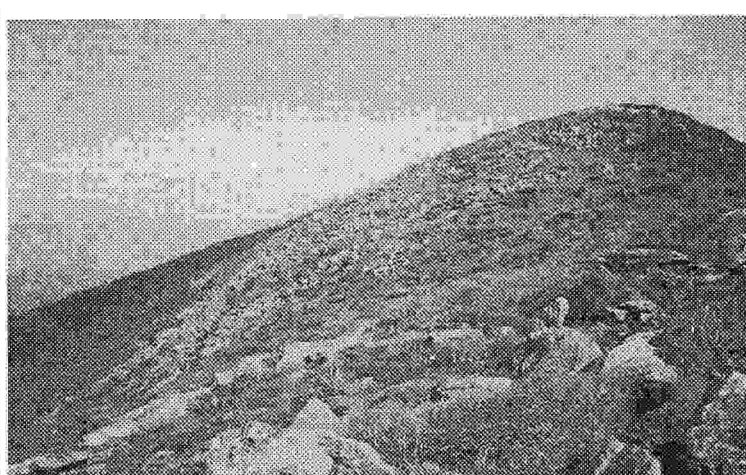
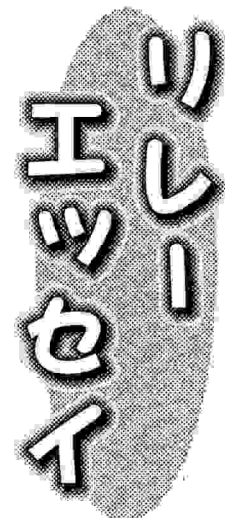
初めての登山は印象深い。登山道はツツジが満開であり、花に埋もれながら山頂を目指した。頂上ではバーベキューのごちそうだった。あれから幾十年経つだろう。ひょんなことから山岳雑誌を見るようになり、あらためて身近にある五葉山に魅力を感じた。

山の魅力は、昔一緒に船に乗っていた福井県の友人から、耳にたこがでるくらい聞かされた。「山の楽しさは登った者でなければ分からない」とよく言われた。友人は地元の白山、立山だけでなく、北海道や東北の主

花々と出合ったが、それでも十分堪能できた。私は六十七歳まで仕事をしていたが、このごろは昼の時間帯は割と自由になるので、一人でふらり五葉山に行く。「さあこれから山に登るぞ」と気張らずに。去年、私より後に登ってきた人が途中でクマに遭った話をしていた。紅葉が始まりかけた十月のことだった。

地球はもちろんであるが、五葉山も少年少女から預かった未来への宝である。長野県のある地方の出版社が発行した本の

『夜明け前』で書いている。それはどまに厳しい罰を科して尾張藩は森を守ってきた。伊達藩もまた森を大事にしてきた歴史を持つ。



住田町側からの黒岩コースと日頃市町側からの大沢コースが交わる稜線から、大小の岩が幾重にも重なり合う黒岩を望む